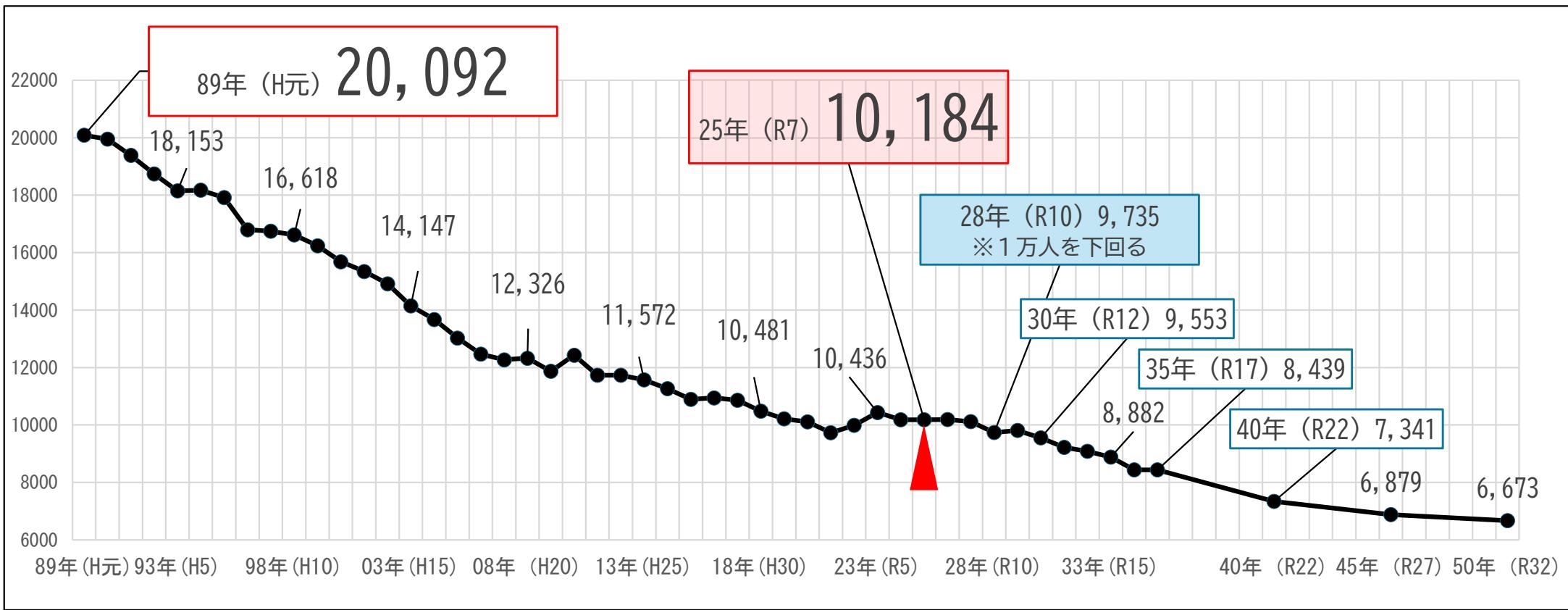


県内中学校卒業者数の推移（人）



【概要】

- 本県の中学校卒業者は、1989年（H元）3月の20,092人をピークとして、その後は年々減少し、2025年（R7）3月には10,184人となり、1989年の約半数となった。
- 2027年（R9）までは1万人前後で推移すると予測される。
- 2028年（R10）には1万人を下回り、2030年（R12）には約9,500人、2035年（R17）には約8,400人、2040年（R22）に約7,300人と5年ごとに 約1,000人ずつ減少すると予測される。

県立・私立高校の現状

県立高校

令和7年度現在

● 学校数: 36校

(全日制31校、定時制・通信制2校、全日制と定時制の併置3校)

● 生徒数

・全日制: 18,786人

・定時制: 522人

● 令和7年度入学者数／募集定員

・全日制: 6,393人／7,320人

・定時制: 174人／440人

※特別支援学校: 13校 高等部生徒数: 515人 (専攻科を除く)
幼稚部: 16人、小学部: 489人、中学部: 355人

私立高校

令和7年度現在

● 学校数: 14校

(全日制14校、うち通信制併置校5校)

● 生徒数

・全日制: 9,229人

・通信制: 158人

● 令和7年度入学者数／募集定員

・全日制: 3,232人／3,635人

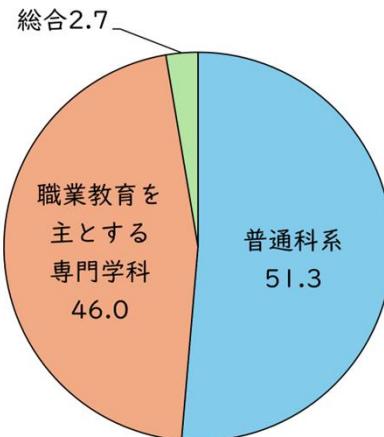
・通信制: 32人／60人

※通信制は、設置初年度(募集なし)1校を除く4校の数値

県立・私立高校の現状～学科別割合～

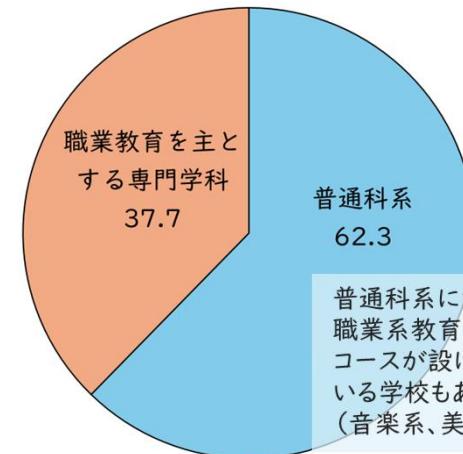
県立高校

令和7年度 県立高校の学科別在籍者割合（%）

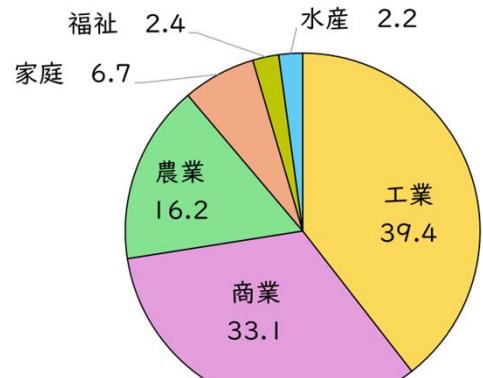


私立高校

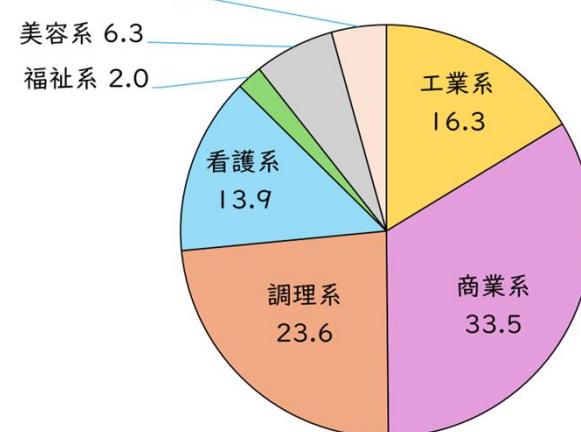
令和7年度 私立高校の学科別在籍者割合（%）



令和7年度 県立高校職業教育を中心とする専門学科における学科別在籍者割合（%）



令和7年度 私立高校その他の学科における学科別在籍者割合（%）



本県の県立・私立高校の現状～学科別募集定員～

県立高校（全日制）学科別の募集定員

区分	普通科系学科	職業教育を主とする専門学科							総合学科	合計
		農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	小計		
令和7年度募集定員	3,640	640	1,240	1,040	120	240	160	3,440	240	7,320
入学者数 R7.5.1時点	3,257	500	1,143	983	70	212	66	2,974	162	6,393

私立高校（全日制）学科別の募集定員

区分	普通科系学科	職業教育を主とする専門学科							合計
		工業系	商業系	調理系	看護系	福祉系	美容系	芸術系	
令和7年度募集定員	2,230	230	400	320	280	45	70	60	1,405 3,635
入学者数 R7.5.1時点	2,019	200	416	303	154	140			1,213 3,232

県内の中学校卒業者数及び県立高校の募集定員

2025年と2040年推計の比較

1 県内の中学校卒業者数

2025年(令和7年)3月

【地区別】

宮崎	4,625人
南那珂	569人
児湯	909人
北諸県	1,902人
西諸県	560人
東臼杵	1,846人
西臼杵	133人

10,184人

28%減

(2,843人)

【地区別】

2040年(令和22年)3月

宮崎	3,319人	28.2%減
南那珂	344人	39.5%減
児湯	552人	39.3%減
北諸県	1,505人	20.9%減
西諸県	385人	31.3%減
東臼杵	1,155人	37.4%減
西臼杵	81人	39.1%減

7,341人

2 県立高校の募集定員(中学校卒業者数の概ね7割と仮定して算出)

2025年度入試

7,320人

約30%減

(2,160人)

2040年度入試

5,160人

54学級減

(40人学級の場合)



改定の背景

- 方針の期間は令和3～10年度までの8年間であり、令和6年度末を目途に方針の見直しが提言

社会の変化

- 急激な出生数の低下
(特に中山間地域が顕在化することが想定)
- 高等学校等就学支援金制度拡充等による進学状況の変化

本県高等学校の現状

- 本県の産業やくらしを支える人材不足が懸念される中、質の高い人材づくり教育が必要
- 地元自治体や企業等との協働の中で、高校を持続的な地方創生の核とする期待の高まり
- 県立高等学校における定員未充足の常態化
- 私立高校進学者、定時制・通信制課程への進学者増加傾向
- 生徒それぞれの実情・ニーズに応じて、個々に応じた多様な学びの充実が必要

【令和5年策定】宮崎県教育振興基本計画

【令和6年度】宮崎県学校教育計画懇話会

宮崎県産業教育審議会

パブリック・コメント

宮崎県立高等学校教育整備基本方針 (令和7年3月改定)

- 令和10年度までの本県高等学校教育の目指す姿
- 社会の情勢の変化と生徒の多様化への対応

求められる学校像

- 主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造する生徒を育成していく、地理的制約を超えた多様かつ質の高い学びの機会を実現できる学校
- 変化を前向きに受け止め、人間らしく豊かに生活し、持続可能な社会の形成に参画する生徒を育成できる学校
- 地域の良さを知り、地域の人々とともに、将来、地域社会を牽引する創り手を育成できる学校
- 能力や適性等に応じて、生徒の意欲を高め、ニーズに合わせて多様な学びにアクセスできる環境を提供できる学校
- 社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育てるキャリア教育を推進する学校
- 問題を発見・解決し、自分の考えを形成するために必要な情報活用能力を育むために、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができる学校

魅力ある高等学校教育の推進

1 高等学校教育の質の向上

- 多様性を認め合い、一人一人を大切にする教育の推進
 - いのちを大切にする教育、人権感覚の育成、いじめ及び不登校対応など
- 次代へ向けて学び続ける子供たちを育む教育の推進
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善など
- ふるさとへの誇りや愛着を持ち、世界を視野に活躍する人材の育成
 - 地域課題解決に参画する態度を育む教育の推進など
- スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりの推進
 - 保健体育の授業の充実、学校における体力づくりの推進など
- 生涯を通じて学び、文化に親しむ社会づくりの推進
 - 文化芸術活動の推進、学校における読書活動の推進
- 教育効果を高める体制や環境の整備・充実
 - コミュニティ・スクールの推進、学校間の連携・接続の推進など



2 学科等の方向性

- 普通科及び普通科系専門学科
 - 教育の情報化及びICT活用の推進、教育課程の工夫・改善など
- 職業教育を主とする専門学科
 - 地域産業等を担う人材育成に向けた高い専門性が身に付けられる実践的・体験的な教育活動の充実
- 総合学科
 - 主体的な学習に対応した選択科目の見直しや学習指導の工夫・改善など
- 定時制・通信制課程
 - 多様なニーズにきめ細かに対応する教育相談体制の充実
- 中高一貫教育
 - 中高連携による特色ある教育活動を推進など



活力ある高等学校教育の推進

1 活力ある県立高校づくりの方向性

(1) 基本的な考え方

- 視点① 生徒にとって魅力と活力のある教育環境を提供することができるか
視点② 地域の持続的成長を支える人材育成の核としての役割



(2) 全日制高等学校の望ましい規模

- 教育効果をより良く発揮できる学校の在り方を引き続き検討していく

2 各地域の学びの在り方

- 普通科系学科と職業系専門学科のバランスを考慮
- コミュニティ・スクールの設置等により、地域や高等教育機関の持つ教育力を生かした学校運営の工夫・改善
- 遠隔授業・通信教育を積極的に活用した学校間等ネットワーク等の構築

【各地区における募集定員の見通し】

	普通科・普通科系専門学科		職業教育を主とする専門学科	
	令和2年度	→ 令和10年度	令和2年度	→ 令和10年度
宮崎地区	35	→ 32~34 (32~34)	31	→ 28~30 (28~30)
南那珂地区	7	→ 5~7 (7)	6	→ 4~6 (6)
児湯地区	10	→ 8~9 (9~10)	8	→ 5~8 (8)
北諸県地区	15	→ 15 (15~16)	16	→ 15~17 (15~17)
西諸県地区	7	→ 6~7 (6~7)	7	→ 6~7 (6~7)
東臼杵地区	16	→ 15~16 (15~16)	23	→ 21~22 (21~22)
西臼杵地区	2	→ 1~2 (2)	2	→ 1~2 (2)

※ 数値は学級数

※ ()内は策定(R3年)時の見通し

県立高等学校・中等教育学校・特別支援学校・私立高等学校の配置

令和7年度

